ほっかいどう
歴史・文化・自然「体感」交流空間構想

平成 30 年 12 月

北海道環境生活部

もくじ

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
このエリアがめざす姿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
北海道博物館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
〔50 年後のめざす姿・今後の方向性・具体的な取組〕
北海道開拓の村　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
〔50 年後のめざす姿・今後の方向性・具体的な取組〕
北海道百年記念塔・塔前広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
〔50 年後のめざす姿・今後の方向性・具体的な取組〕
野幌森林公園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
〔50 年後のめざす姿・今後の方向性・具体的な取組〕
近隣施設との連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
〔50 年後のめざす姿・今後の方向性・具体的な取組〕
５０年後の道民に引き継ぐ思い　・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
エリア再生に向けた「具体的な取組」の進め方　・・・・・・・・・　１４
資料編　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
　イメージ図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　構想策定経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
　施設の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７
　用語解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

※　本文中「〇〇〇※」と表示された用語については、４７ページからの用語解説にて説明しています。

はじめに

今年（2018 年）、この北の大地は、北海道と命名されてから 150 年目の節目の年を迎えました。

現在、北海道は欧州の一国にも匹敵する豊かな地域となりましたが、この発展は悠久の歴史を持つ北の大地が刻んできた幾多の先人の営みの上に成り立っています。

私たちの北海道には、世界遺産登録をめざす縄文遺跡群※をはじめとする歴史的な文化や、先住民族であるアイヌの人たちによって培われてきた文化が存在します。さらに、全国各地からの移住者の生活や明治期における諸外国の影響を受け継ぎ、開放的で多様性のある文化が育まれてきました。

昭和 40 年代の北海道百年記念事業の一環として公園指定された道立自然公園野幌森林公園に所在する北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔は、本道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の偉業、そして自然に触れることができる場として、これまでの長きにわたって道民の皆様に親しまれ、多くの方々に利用されてきました。しかし、開設から約 50 年が経過したこともあり、施設の老朽化や利用者数の減少など様々な課題が生じています。

北海道命名 150 年の今年、道では、道民の貴重な財産であるこれらの施設を次の世代にどのような形で引き継いでいくのが相応しいかについて、これまで様々な機会を通じて道民の皆様や専門家の方々から幅広くご意見をいただいてきました。

このたび、こうしたご意見も踏まえて、これらの施設に自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を、歴史、文化、自然を体感し交流できる空間として再生し、次世代に伝えていくための構想をとりまとめました。

道では、今後、この構想の実現に向けて着手可能なものから順次取り組んでまいりますが､道民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

このエリアがめざす姿

大都市近郊に残された野幌森林公園の豊かな自然環境をフィールドに、北海道博物館や北海道開拓の村が伝える「歴史・文化・自然」等の各施設が持つ強みを活かし、隣接する他の施設や教育機関等と一体となって、「学ぶ」、「触れる」、「集う」、「繋がる」をキーワードに、異なる世代、様々な国や民族、障がいの有無などに関わらず、訪れる利用者のすべてが、北海道の歴史や文化、自然を五感で「体感」し、交流できる賑わいのある持続可能な空間をめざします。

北海道博物館

＜50 年後のめざす姿＞

北海道博物館　中空土偶

北海道の歴史、文化、自然を総合的に学ぶことのできる博物館として、子どもから大人まで多くの人が繰り返し訪れています。

また、本道固有の歴史や道内各地の様々な文化を発掘・再発見し、発信・継承する「北海道ミュージアム構想※」の中核的博物館※として、地域の博物館等とのネットワークを構築し、道内各地での学びや地域の活性化をサポートしています。

さらに、博物館から発信した情報が国内外の人々の北海道の歴史・文化・自然への関心を高め、本道の観光客増加に寄与しています。

＜今後の方向性＞

北海道博物館の設置に当たり策定した「北海道博物館基本計画（以下「基本計画」という。）」における３つの基本理念※のもと、今後、次の２つの点にも重点をおいて進めていきます。

◎　本道の中核的博物館、道民参画型博物館※として、更なる魅力向上に努めます。

◎　2020 年、白老町に開設される国立アイヌ民族博物館※等との役割分担を考慮に入れながら幅広い連携を図ります。

＜具体的な取組＞

基本計画を踏まえ策定した「基本的運営方針」に基づき、博物館運営に係る中期目標・計画※を定め具体的な取組を引き続き進めるとともに、北海道立総合博物館協議会※による事業評価などにより、その運営が適切に行われているか検証し、改善に努めていきます。

○　次期中期目標・計画の策定及び推進

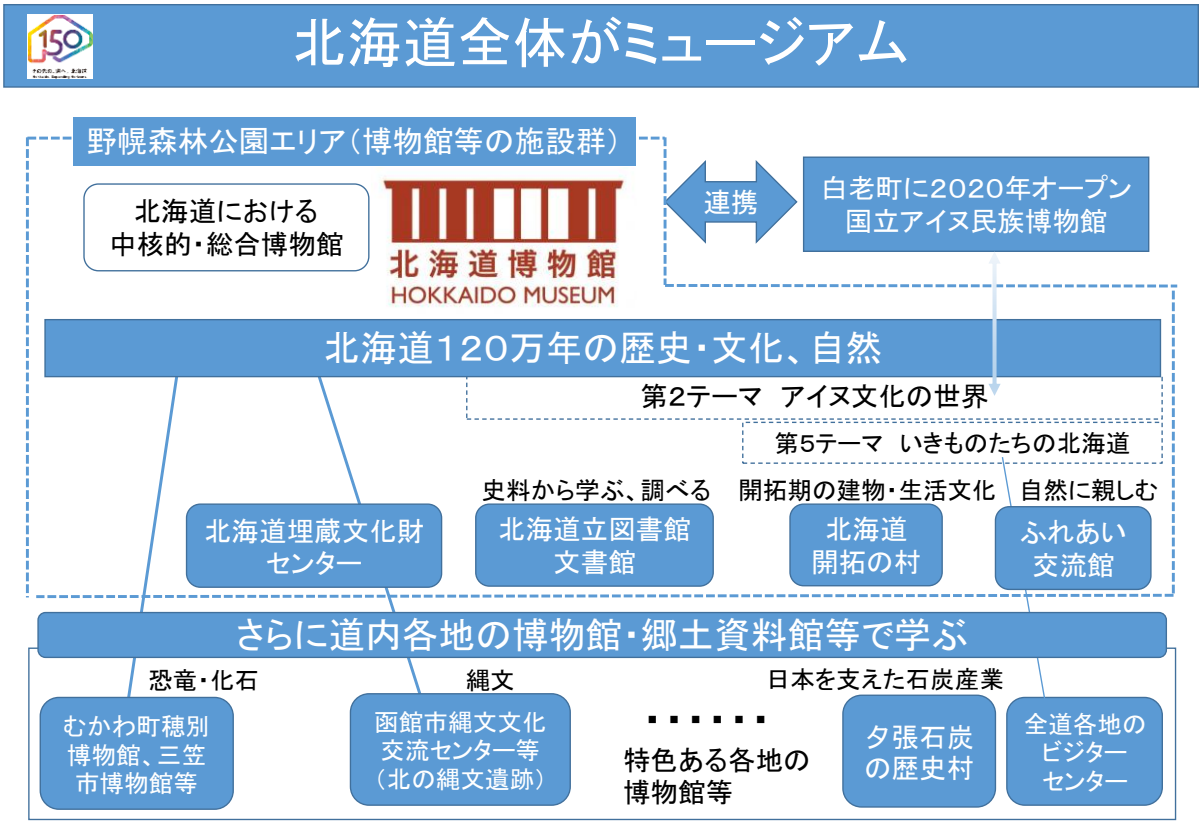
現在、取組を進めている事業もありますが、2020 年度からの５カ年間の中

期目標・計画について、＜今後の方向性＞や専門家並びに道民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、主に次の事項について検討し、目標を定めた上で、着実に取組を進めます。

・北海道の中核的博物館としての機能の充実や道内博物館などとの連携のさらなる強化
・博物館参加組織（ミュージアムパートナー(仮称)）等の導入
・民間企業等と連携した企画展の取組
・生涯学習や学校教育への支援の充実
・スマートフォンアプリの活用など ICT を活用した情報提供と地域住民等とのさらなる連携
・外部資金の導入・活用の検討
・出前講座の実施など地域とのネットワーク構築
・利用者ニーズや客観性を踏まえた展示の入れ替えの検討やイベントの充実によるリピーターの確保
・こどもからおとなまで楽しみながら学べる体験学習の場である「はっけん広場※」の運営と活動の充実
・広報機能など情報発信力の強化による認知度の向上
・博物館実習生やインターンシップ等の人材育成
・交流人事など組織の活性化の検討
・北海道博物館と開拓の村、野幌森林公園（野幌森林公園自然ふれあい交流館※を含む）の回遊性を高める取組
・国立アイヌ民族博物館との共同研究等の実施
・アイヌ文化に関する調査研究等の機能の充実

○　指定管理者制度※の見直し

・全庁的な指定管理者制度見直しへの対応検討（指定管理期間、修繕費の負担のあり方等）
・指定管理者が行う自主企画事業の範囲を整理



北海道開拓の村

＜50 年後のめざす姿＞

北海道立総合博物館の本館である北海道博物館と一体となって、主に開拓期の歴史を体験的に学び、未来への発展の心を養う場としての役割を引き続き果たしています。

北海道開拓の村　旧札幌停車場

いつ来ても、懐かしさを感じさせる北海道らしいイベントが開催されており、道民の皆様のみならず多くの訪日外国人に人気の場所となっています。

また、世界的にも稀少である、積雪寒冷地における歴史的建造物の保存・展示施設として、「活用しながらの保存」に向けた様々な取組を実践しています。

＜今後の方向性＞

◎　博物館としての役割を基本としながら、国内外からの旅行者をターゲット

にした観光拠点、古民家再生※等人材育成拠点としての活用を図ります。

＜具体的な取組＞

野外博物館としての基本的機能の充実とともに、観光拠点や人材育成拠点として活用するための方策について、専門家並びに道民の皆様からいただいたご意見を踏まえながら、有識者等による協議を行い、開拓の村の今後のあり方について取りまとめます。

○　開拓の村の展示建造物の保存、活用に関する有識者会議による検討

現在、取組を進めている事業もありますが、専門家並びに道民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、主に次の事項について検討し、実施可能なものから順次、取組を進めます。

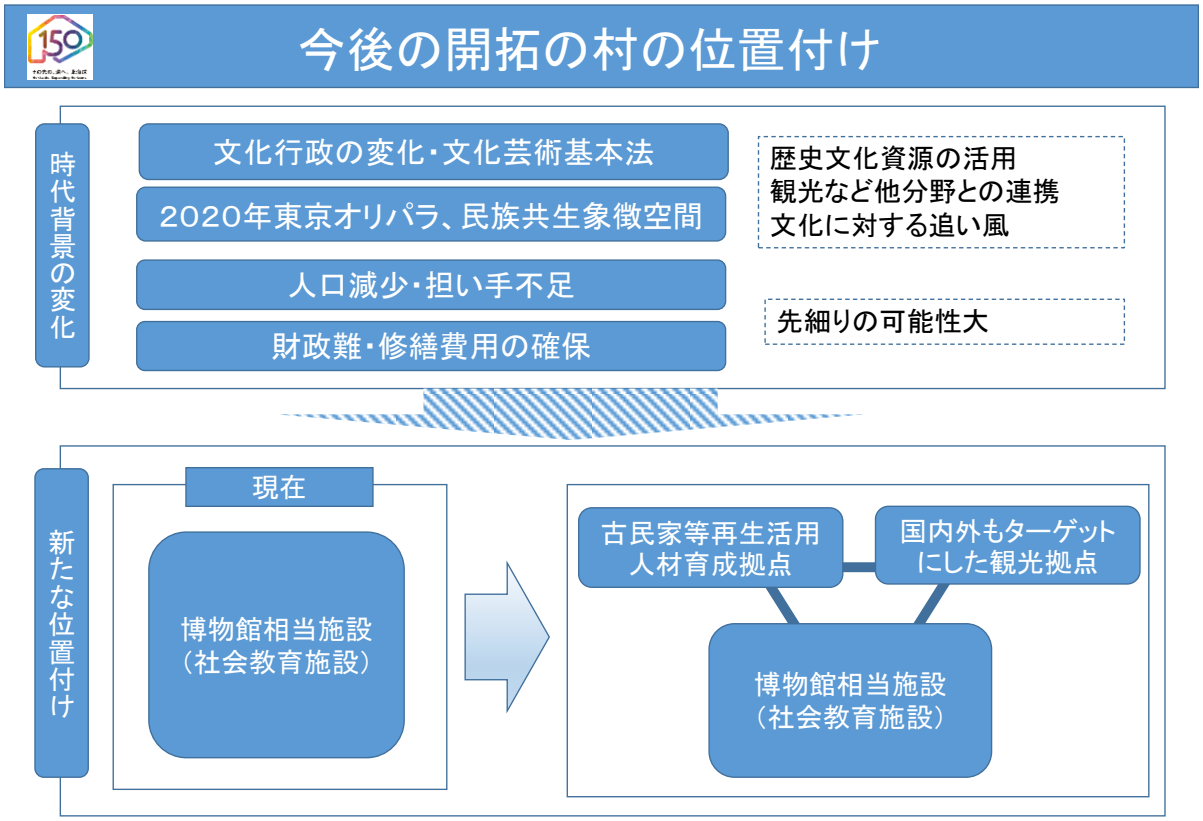
・「道有建築物等における修繕の新たな仕組み」（修繕業務の集約化）を踏まえた今後の維持修繕活用方針の策定
・代替素材の活用（修繕費の節約、耐久性の向上等）の検討
・民間の資金や活力の導入の検討（PPP※、PFI※、指定寄附※、クラウドファンディング※、オーナー制度※、ネーミングライツ※等）
・各自治体教育委員会等との連携による道内児童、生徒の利用拡大（修学旅行、社会科見学の誘致）
・障がい者に配慮した展示方法等の検討
・宿泊や着付け等の体験型プログラムの充実
・民間企業と連携した発信力強化の検討（マラソン大会やコスプレイベントの実施、古民家風カフェの導入、オリジナルグッズの開発・販売、夜間営業、ライトアップ、無料の日の設定等）
・民間企業等が行うヘリテージマネージャー※研修や NPO 団体等との連携による展示建造物の保存活用
・修繕業務における道内の技術者、地域材の積極的活用（修繕業務の「地産地再※」）

○　指定管理者制度の見直し

・全庁的な指定管理者制度見直しへの対応検討（指定管理期間、修繕費の負

担のあり方等）

・指定管理者が行う自主企画事業の範囲を整理



北海道百年記念塔・塔前広場

＜50 年後のめざす姿＞

この広場は、道民のみならず、国内外からも数多くの方々が訪れ、家族や仲間と楽しむ交流空間となっています。

広場の中心にあるモニュメントは、はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担っています。

また、大地の手広場※には、人と人のつながり、絆を大切にしようという建造の精神が引き継がれています。

周辺広場は、利用者が犬を引き連れるなど自由に散策することが可能な一方で、友人や仲間たちとバーベキューやボール遊びを楽しむなど、周囲の自然豊かな森林を背景に、安全で心安らぐ憩いの場としての役割も果たしています。

＜今後の方向性＞

◎　百年記念塔は、先人に対する感謝と躍進北海道のシンボルとして、また道民の貴重な財産として長く親しまれてきました。

しかしながら、記念塔は、建設から５０年近くが経過し、老朽化が進み、錆片などの落下もあることから公園利用者の安全性を確保することが重要であるため、平成２６年７月から立入禁止としています。

道では、これまで様々な専門家の方の知見を伺いながら記念塔の維持管理の方法等を検討してきました。

記念塔の外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に、雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

このため、利用者の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置することとします（発展的継承）。

［※百年記念塔の安全性に関する検討は４１ページを参照］

◎　百年記念塔に替わる新たなモニュメントは、はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとします。

◎　新たなモニュメントは、記念塔にある佐藤忠良氏のレリーフや解体材の有効活用を検討するほか、耐久性や今後の維持経費にも配慮します。

◎　周辺広場は、自由に散策できるなど広く開放された交流空間とするため、利用規制の緩和に向けて、利用者や有識者の意見を聞くなど検討を行うとともに、安心して利用するため施設の安全性向上に努めます。

＜具体的な取組＞

○　新たなモニュメントを中心とする賑わいのある広場の整備を推進

・百年記念塔を解体するための実施設計、解体工事の実施
・学校の校歌や校章に使用されるなど、地域のシンボルとして根付いている百年記念塔に関する思い出や記憶をとりまとめ、保存するための取組等の実施
・新たなコンセプトを実現するため、幅広くデザインの提案を受けられる方法の採用による新たなモニュメントの設置
・利用規制の緩和に向けた検討（利用者の意向確認、有識者の意見聴取等）
・施設の適正管理による安全性の向上

野幌森林公園

＜50 年後のめざす姿＞

都市近郊に残された世界有数の平地林が原始の面影を残しつつ、適切に保全され、野外の自然に親しむ場として、夏は森林浴、冬は歩くスキーなど、あらゆる方々が安心して公園を利用しています。

＜今後の方向性＞

◎　大都市近郊の貴重な平地林として適切に保全するとともに、森林の保全と活用を図ります。

◎　遊歩道のバリアフリー化や老朽施設の適切な維持管理、案内板の多言語化等、あらゆる方々が安心して公園を利用できる環境づくりを進めます。

＜具体的な取組＞

野幌森林公園の貴重な自然を保全するため、様々な取組を進める一方で、多くの人々が親しむことができる公園とするための活動の充実等を図ります。

○　貴重な自然の保全及び公園利用促進の取組

・関係機関と連携し、生態系の保全、不法投棄対策、公園利用者のマナー向上に関する啓発に取り組むなど、森林の保全活動を推進
・多くの利用者が自然に親しむ機会が持てるよう、関係機関が連携して自然観察会などの活動を充実
・障がいのある方や訪日外国人など、あらゆる方々が安心して公園を利用できるよう、遊歩道の一部のバリアフリー化や多言語による案内看板の整備などユニバーサルデザイン化の検討
・施設の適正管理による安全性の向上
・道民の皆様に親しまれ、覚えられやすいエリア全体を表す愛称の募集と普及の検討

○　指定管理者制度の見直し

・全庁的な指定管理者制度見直しへの対応検討（指定管理期間、修繕費の負担のあり方等）
・指定管理者が行う自主企画事業の範囲を整理

近隣施設との連携

＜50年後のめざす姿＞

近隣の埋蔵文化財センター※、野幌総合運動公園※、北海道立図書館※、同文書館※などの歴史、文化・スポーツ施設と連携したイベント等が実施されており、交流空間としてエリア全体を人々が行き来し各施設に賑わいが広がっています。

＜今後の方向性＞

◎　埋蔵文化財センター、野幌総合運動公園、図書館などの文化・スポーツ施設等と連携を図ることにより、より魅力的な交流空間として再生を図ります。

＜具体的な取組＞

○　密接な連携を図るため、イベントの開催や情報の一元化など、様々な取組を推進

・各施設と連携したイベントの開催の検討
・各施設と連携を図るための遊歩道の環境整備を検討

・各施設情報を一元化したパンフレットやホームページ等による情報発信
・道立図書館・文書館等との図書・資料情報の共有を通じた利用の円滑化を検討
・施設相互利用のモデルプランの検討
・世界遺産登録を見据え、埋蔵文化財センターへの経路沿いに住民参加による屋外縄文施設の整備を検討
・民間バス会社等との連携による交通アクセスの改善
・レンタサイクルの導入に向けた民間事業者との協議